

旭ろうさい病院ニュース

病院情報誌 第168号

令和3年6月1日発行

発行所:旭ろうさい病院

〒488-8585

尾張市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

当院「総合内科」の最近のトピックス

総合内科部長 小栗 太一



平素より登録医の先生方には大変お世話になっております。

令和元年の新病院の移転とともに新設された総合内科ですが、この2年で私の他に新たに2名の総合内科医師が常勤医として加入し、現在は3人体制に拡充しております。

昨年6月より当科に加入した村松医師は明るく活発な当院のムードメーカー的な存在であり、総合内科外来のみならず救急外来でも迅速かつ正確な診療を行っております。本年4月より新たに加入した成井医師は若手6年目の総合内科医であり研修医や専攻医の面倒見もよく、すでに彼らから慕われる兄貴分的存在となっています。

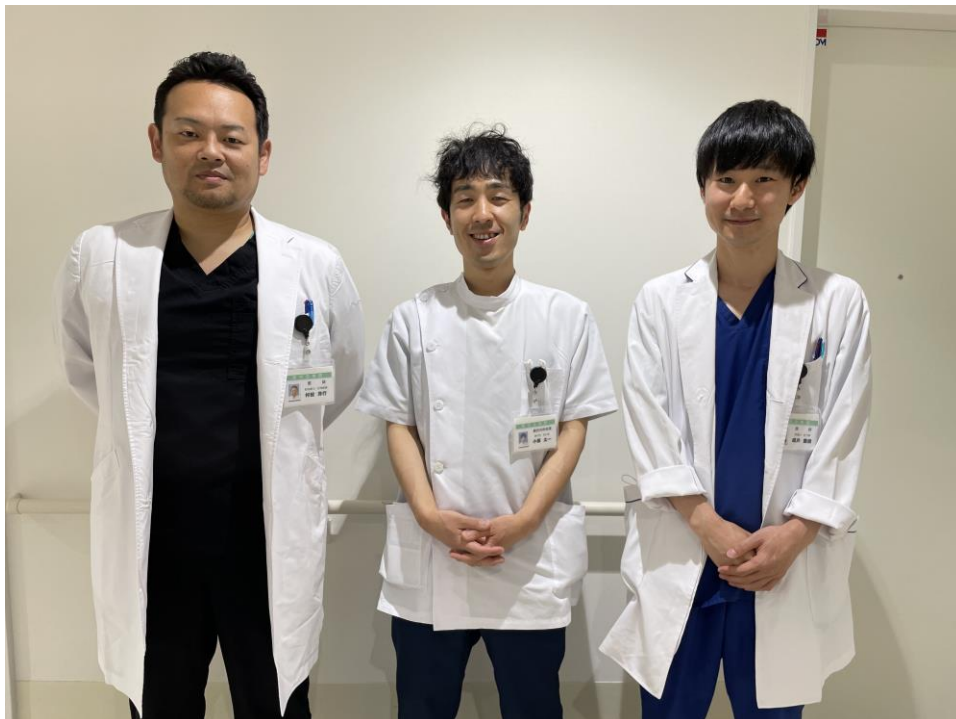
また総合内科外来は総合内科の医師の他に専攻医や救急部の医師を含む総勢10名の常勤医による交代制となっており、週1回の総合内科外来カンファレンスでは研修医も交えて症例の活発な議論が行われております。

専攻医制度が始まって以来、他院の研修で学んだ若手医師も当院のカンファレンスに参加するようになり、研修した病院特有の慣習や学んできた知識内容にもバラエティーがあり、さながら異文化交流のようで私自身もいつも若手医師の議論から学ばせてもらっている毎日です。

私自身の最近のトピックスは診断学やコミュニケーション、治療方針にロジカルシンキングを応用したメソッドを専攻医や研修医、学生に広めております。ロジカルシンキングとは論理的思考とも呼ばれ、物事を体系的に整理して矛盾なく論理的に思考するための方法で、主にコンサルティング業界などで用いられており、もともとは非常に長い歴史があるものです。

もしご興味ある方がいらっしゃいましたら本日（2021年6月1日）発売予定の「総合診療のGノート」6月号（羊土社発行）に「明日からの診療を変える！臨床推論×ロジックツリー」のタイトルで記事を執筆させていただきましたので、書店で見かけたらぜひ手に取っていただき感想をお聞かせいただくと嬉しいです。

最後に、先生方の中で診断がつかず悩まれている患者様やお困りの症例がございましたら、ぜひとも当院総合内科にご紹介いただけますと幸いです。



《 村松洋行 医師 ・ 小栗太一 部長 ・ 成井龍樹 医師 》



細胞診コメントの底力

= ジグソーパズル1ピースからの想像力 =

中央検査部長 谷 清彦



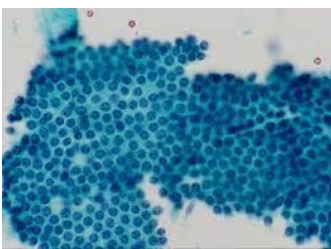
細胞診とは、顕微鏡を用いて、その形態から細胞の良性・悪性・腫瘍名などを推定する検査法です。細胞診は低侵襲で比較的安全に検査ができるため、がん検診から補助診断まで幅広く用いられていますが、診断の根底にかかわる部分では、細胞診は大きな力を発揮しています。

その中で細胞診の報告書のコメント表現は、個々の細胞の形態的な特徴や細胞集団の配列状態などを表現し、判定の根拠をできるだけ分かりやすくお伝えすることを目的としています。

そこで今回は、コメント表現がどのような意味を持つのか、実際に使用頻度が多いコメントをいくつかピックアップし、細胞診画像をもとに解説したいと思います。

【コメントと細胞画像】

1) シート状配列…平面的結合性を示す細胞群が一層の平面的配列をした状態。



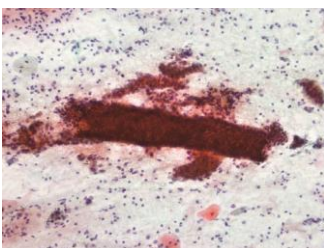
〈正常の腺上皮が塗抹された場合〉

細胞境界が明瞭な場合は蜂巢状（蜂窩状）構造を示す。

〈異常な腺上皮が塗抹された場合〉

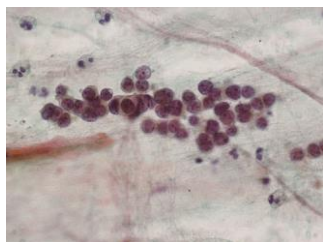
乳頭状に増殖する腺癌細胞が塗抹された場合もシート状を呈する。
(核の異形を認めます)

2) 管状集塊…腺管状構造を示す集塊。



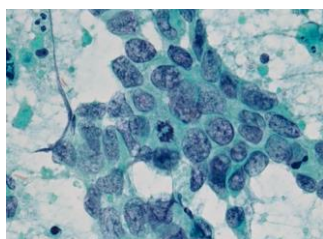
腺管の構造が壊れずに、そのままの形で塗抹された状態。腺管構造が断片的に塗抹されるとシート状あるいは柵状配列を示す。良悪性の判断は核の核縁不正や核間距離に不規則性が出現する。

3) **木目込み細工様配列**…細胞相互が密接に結合し合っ、お互いを圧迫し合う様に鑄型状に配列した状態。



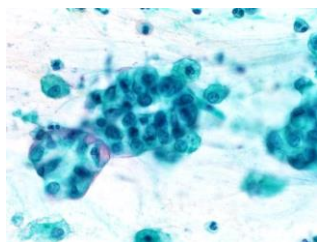
主に小細胞癌の細胞に対してのコメント表現に使用する。核密度の高い不規則な集塊。N/Cは限りなく1に近く、光学顕微鏡ではほぼ裸核状に見える。大きさはリンパ球の一回り大きい程度で小型細胞である。

4) **核縁不整**…核の形状が不整形となる。



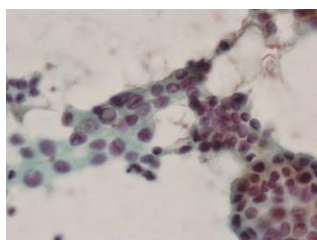
核の形態、核周囲（核膜）が不整であること。正常細胞の核縁は円滑であるが、悪性化すると核に異常を来し、核縁不整が目立つようになる。核縁不整は特定の組織系で見られる所見ではなく、癌細胞全般で認める形態異常である。

5) **亀甲状集塊**…亀の甲羅に似た細胞集塊。



粘液産生性の細気管支肺胞上皮癌の時に見られる集塊で、細胞配列は規則的で極性が見られ、高円柱状の腫瘍細胞からなり、境界は明瞭でN/Cは低い。良性の円柱上皮細胞の集塊との区別は、核形不整の有無と集塊辺縁の繊毛の有無が重要となる。

6) **核内細胞質封入体**…細胞増殖の活性化や代謝が更新していることを示す所見。悪性に特異的な初見ではない。



核内細胞質封入体は良性病変では、乳腺の筋上皮細胞腫や神経鞘腫、悪性病変では甲状腺の乳頭癌で特徴的な所見の1つでもあり、診断の決め手となる。（その他良性…ヘルペス感染・クラミジア感染）

細胞検査士が標本のスライド全体をスクリーニングし、僅かな形態変化や背景の状態、異常細胞の有無を確認します。例えるならば、ジグソーパズルの1ピースから想像力を働かせ、全てのピースが埋まったパズルを想像します。このように数少ない情報（所見）を集めて総合的に判断し、報告書にコメントとして簡潔に分かりやすく記載することにより、先生方に正しく情報がお伝えできるよう心がけています。今後も日々精進し、いかなる情報（所見）も見落とさず、病気の早期発見・早期治療に結び付けられるように努力していきたいと思います。